

2023年 5月 22日

2022年度 総合文化研究所研究助成報告書

研究の種類 ※該当する()に ○を付ける	・共同研究(○) ・個人研究()	
研究代表者 (所属・職・氏名)	看護学部・教授・西田志穂	
研究課題名	看護学部の学生によるチーム支援型サポートシステムの構築とその効果 一科目「基礎ゼミナール」でのサポートにおける効果一	
研究分担者氏名	所属・職	役割分担
岸田泰子 ケニヨン充子 荒木亜紀	看護学部 教授 看護学部 准教授 看護学部 准教授	研究計画・データ収集・分析 研究計画・データ収集・分析 研究計画・データ収集・分析
研究期間	2022年4月1日 ～ 2023年3月31日	

研究実績の概要(1)

1. はじめに

看護学部において、2021年度入学生に対して直上の学年が支援する活動を開始した。支援者となる上級学生を「エルダー」と呼称し、上級生によるチーム支援型サポートシステム「エルダー制」を構築中である。本活動の目的は、主として、新入生が早期に大学生活に慣れ、有意義な学生生活を送れるように支援すること、新入生への学習支援および在学生のリーダーシップ向上の一方法として導入し、双方の学力向上を目指すことである。加えて、看護学部の特色の一つとして位置づけられるような仕組みを作ることである。これを目指し、年次経過とともに段階的にサポートの学年を広げ、最終的には、各学年が直下年次の学年のサポートが行えるように、システム構築を進め、将来的には、高大連携プログラムにもつなげることを視野に入れて活動を行っている。

2. 2021年度の活動

2021年度のはじめに2年次学生からエルダー希望者を募り、前期教養教育科目の必修科目「基礎ゼミナール」における試行的導入から開始した。4クラス中2クラスで14回授業のうち4回、グループワークが主体の授業回でエルダーが参加した。エルダーは、ファシリテーター役を担い、グループワークにおけるディスカッションの促進を図った。エルダーの参加回は授業に活気がみられ、学生からのフィードバックの内容からも、学生自身の学びや成長を実感している様子を読み取れ、いくつかの効果が想定された(岸田他, 2022)。

そこで、2022年度は、活動の拡大と並行して活動の効果を測定し、特に他者と協働しリーダーシップを発揮する能力を育成することが期待できる人材育成の一助としたいと考えた。

研究実績の概要（2）

3.目的

エルダー活動を取り入れた科目「基礎ゼミナール」において、上級生からのサポートが学生に及ぼす効果を明らかにする。

4.研究方法

対象：①エルダー活動を行う2年次学生7名、および、②2022年度科目「基礎ゼミナール」で、エルダー活動の対象となるクラスの1年次学生のうち、同意をえられた43名

データ収集：対象①から提出された活動報告、および、対象②から提出された授業のリアクションペーパー

データ分析：テキストマイニングを併用し、帰納的に分析する。記述内容の経時的変化、あるいは、データ間の共通性や相違点を見出す

データ収集期間：科目「基礎ゼミナール」の終了後

5.倫理的配慮

2022年度共立女子大学・共立女子短期大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（KWU#22004）。

6.エルダー活動の実際

2022年度の科目「基礎ゼミナール」の第1回、第2回、第3回、第5回、第6回の計5回の授業において、各回4～6名が活動した。具体的には、授業の進行に応じた学生サポート、グループワークのファシリテーションの他、単元に関連した内容に関する自身の体験を語る時間を持った。各授業回の内容は次の通りであった。

第1回：科目ガイダンス、学内探索

第2回：自己紹介、キャリアデザイン

第3回：大学で学ぶということ

第5回：大学生活におけるルールとマナー

第6回：大学生活とメンタルヘルス

7.エルダー活動の結果

エルダー活動を行った2年次学生

相手の立場に立ち、必要とされているサポートをとらえてかかわっていた。ときには、1年次学生からの問いかけに助けられることもあったと振り返っていた。

エルダー活動のクラスの1年次学生

学内探索では、エルダーのガイドが大学へのエンゲージメントを高めるきっかけとなっていた。学習が難しいと予想される科目の学習方法や教員への質問の仕方など、これからの大学生活に必要なことを知り、行動の意識付けとなっていた。

研究発表(印刷中も含む)雑誌および図書